

歴史都市防災研究所

Institute of Disaster Mitigation for Urban Cultural Heritage

DMUCH



文化遺産と歴史都市を守り、生かす。保全と防災の分野をつなぎ文理融合の研究領域「文化遺産防災学」を創発する

歴史都市における地域に根ざした文化遺産は、長い年月をかけて醸成されてきた人々の文化的活動の結晶であり貴重な社会的共通資本です。このかけがえのない文化的価値を損なうことなく、災害の脅威から守り、次世代へ継承することは、現代を生きる私たちの責務です。

歴史都市の有形無形の文化遺産には、自然環境や災害と真摯に向き合い共存するための先人の豊かな知恵や技術、経験が内包されています。歴史都市防災研究所では、こうした先人の知恵を抽出し、コミュニティ全体に根付かせ、未来に受け継がれる減災文化の実現を目指しています。そのために、人文社会学と理工学の学問分野の枠を超えて歴史的・文化的・技術的価値の多面的な評価に基づいて、文化遺産防災、あるいは

歴史都市防災に関わる研究課題に取り組んでいます。さらに、アーカイブ等の情報技術を駆使する立命館大学アート・リサーチセンターとも共働しつつ、国内外の人材と研究プロジェクトが集うプラットフォームを構築しています。

2023年には歴史都市防災研究所は設置から20年を迎え、地域社会や地方自治体をはじめとする産官学、NPO／NGO、そして国際機関との連携を充実させるとともに、「文化遺産防災学」の発展、文化的価値を継承する地域知と伝統知の蓄積、実践的な防災技術の獲得、即戦力となる実務家と将来の研究発展を担う若手研究者の輩出に取り組んでまいります。そして、当該分野の国際的な中心拠点として、充実した教育研究環境を確立し、社会貢献に努めてまいります。

歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点

災害と防災

土木工学 建築学
地震工学 都市計画学
災害科学

文化遺産の保存

歴史学 保存修復学
政策科学 文化財保存学
地理学 文化情報学

文化遺産・歴史都市の保全活用と災害安全の両分野をつなぎ総合的な研究領域の創発

論文集やシンポジウム

『歴史都市防災論文集』や『京都歴史災害研究』（論文集）の発行、歴史都市防災シンポジウム主催による研究成果の発信を行なっています。

研究・教育用書籍の刊行

研究成果や大学院等での講義内容を集約した『文化遺産防災学「ことはじめ」篇』や『テキスト 文化遺産防災学』、『2015年ネパール震災の記憶』などの書籍を刊行しています。

「文化遺産防災学」教育プログラム

市民や他大学を含む大学院生、実務家である社会人に対して、履修証明制度を利用した分野横断型の教育プログラムとして実施し、「文化遺産防災学」に触れる機会を提供することで裾野の拡充と発展に貢献しています。

主な国際・社会連携活動

立命館大学 ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」

「文化遺産と危機管理」をテーマに、国際機関や海外の研究者と連携しながら、自然や紛争などの脅威から文化遺産・歴史都市を守る上での課題の共有、防災計画の策定や人材育成に関わる研究や事業を行っています。学生から実務家まで、広く国内外にノウハウを届けるべく事業を展開しています。



みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト

小学生が自宅周辺や学校周辺などの身近な地域を調査し、それを地図化することで、地域の安全安心について考え、保護者や小学校と情報を共有することを目的に、毎年実施しています。優秀作品の中から、全国児童生徒地図作品展連絡協議会主催「全国児童生徒地図優秀作品展」（事務局：国土交通省国土地理院）にて国土交通大臣賞や審査員特別賞が選出されるなど、社会的にも高い評価を受けています。



主な研究テーマ

- 災害と地域社会の歴史に学ぶ
- 歴史的まちなみを守る技術を開発する
- 文化遺産への人災・獣害を防ぐ
- 歴史文化都市の防災をデザインする
- 国際的な研修事業を通して社会貢献を行う



研究所長：吉富 信太(理工学部 教授)
主な研究拠点：衣笠キャンパス
お問い合わせ：立命館大学 歴史都市防災研究所 TEL: 075-467-8801 FAX: 075-467-8825
<https://r-dmuch.jp/>

